

青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会  
(三八地区) (第3回) 概要

日時：平成29年1月31日(火)

15:00～17:00

場所：八戸プラザホテル 2階 プラザホール

<出席者>

委員

伊藤 博章 委員、友田 博文 委員、高橋 正之 委員、宇藤 裕夫 委員、  
境 久孝 委員、川浪 孝雄 委員、橋本 芳弘 委員、中村 孝範 委員、  
吉岡 義久 委員、田村 哲章 委員、嶋脇 郁夫 委員、芦名 均 委員、  
四戸 康雄 委員、高橋 力也 委員、斗沢 一雄 委員(進行役)

オブザーバー

久慈 恵司 県立八戸高等学校長、 福井 武久 県立八戸東高等学校長、  
竹浪 二三正 県立八戸北高等学校長、 鎌田 晃説 県立八戸西高等学校長、  
三上 幾子 県立三戸高等学校長、 宍倉 慎次 県立五戸高等学校長、  
石澤 徳成 県立田子高等学校長、 四木 博之 県立名久井農業高等学校長、  
米内山 裕 県立八戸水産高等学校長、 敦賀 定彦 県立八戸商業高等学校長、  
高谷 正 県立八戸中央高等学校長、 中村 健 県立八戸聾学校長、  
敦川 真樹 県立八戸第一養護学校長

1 開会

2 委嘱状交付

三上教育次長から、境委員へ委嘱状を交付した。

3 教育次長挨拶

三上教育次長から、挨拶があった。

4 事務局説明及び意見交換

(1) 資料1-6「1 三八地区の中学校卒業生数の推移と全日制課程の学級数の見込み」及び「2(1) 重点校、拠点校、地域校について」

事務局から、資料1-6及び資料2について説明した。

委員から、次のような意見があった。

- これからの生徒数の減少を考えると、重点化、拠点化はやむを得ないと思う。  
ただし、重点校の学校規模の標準を6学級以上とすることにはわだかまりを持っている。6学級以上としていることにはそれなりの根拠があると思うが、

それを根拠として良いのかどうか。重点校は4学級以上では駄目なのかと思っている。

地域校とする学校については、入学者数だけではなく、地域性、生活圏、文化圏、歴史等を十分考慮した上で判断すべきであるとする。

→（事務局）重点校の学校規模の標準を6学級以上とした理由は、大学進学に対応した幅広い科目を開設できるよう配慮したものである。基本となる学校規模の標準を4学級以上としたことも、科目開設や部活動の選択肢を確保するためである。

- 大学進学を目指す高校が、最低1校は必要だろうという意味で、「重点校、拠点校をそれぞれ1校とする考えには賛成である。序列化につながるという懸念もあるが、その地域の子どもの能力を伸ばすためには、良い方法である。」との意見を提出した。

## （2）資料1-6「2（2）委員の意見に基づく学校配置シミュレーション」

事務局から、資料1-6及び資料2について説明した。

- ① 「ア 平成29年度に生徒を募集する全ての高校を配置する場合」について  
委員から、次のような意見があった。

- 第1回地区意見交換会から話していることだが、学校というのは、ある程度まとまった数の生徒が、教科の学習だけでなく、社会性を含めた人間性を養う場でもあると考えるので、ある程度の規模が必要だと思う。小学校は学級担任制で1人の担任がほとんどの教科を指導するため、少人数教育の効果はあると思うが、中学校、高校はそれだけでは難しいと思う。

小学校は限られた学区の児童が通学していることから、自宅から15分程度で通える範囲にある。中学校は複数の小学校から生徒が入学し、交友関係が広がる。高校は電車やバスで通学するなど、さらに通学範囲や交友関係が広がる。そういうことを踏まえると、前回の地区意見交換会では、4学級あればある程度の教科の先生が揃うとの話があったが、むしろ6学級あった方がよりきめ細かな指導ができると考える。

したがって、全体的にバランス良く学級を減らしていくのではなく、ある程度統合も含めて考えていかないといけないと思う。

② 「イ 三戸郡にも多様な学びのできる高校を配置する場合」について

委員から、次のような意見があった。

- 名久井農業高校に勤務していた頃、三戸郡の高校を統合し総合学科を設置する動きがあり、私も教室配置をはじめとする様々な構想に携わったが、当時三戸郡には三戸高校、南部工業高校もある中、なぜ一緒にするのかと思っていた。結局その計画は立ち消えになった。

かつて生徒数が多くなり設置した学校は、生徒数の減少に伴い統合することになると思う。八戸市内の高校を2、3校募集停止にすれば、三戸郡内の高校に生徒が入ってくるのではないか。また、新聞紙上で三戸郡の高校の活躍を見ると、地域や家庭に密着した教育を展開している三戸郡の高校は存続させるべきと考える。

- 郡部校は残してほしいと前回から述べている。もし、統合するのであれば、他の地区も羨むような高校をつくれれば良い。他にないような教育システムができれば八戸市内の生徒も入学するのではないか。

名川中学校は教科センター方式ということで、各教科で教室が決まっており、生徒は毎時間各教科の教室に移動し、新鮮な気持ちで授業を受けている。これは県内唯一である。そのような名川中学校は10年間かけて侃侃諤諤の議論をしてできた学校である。5年や10年では新しい教育システムの学校はつくれないし、既存の校舎を使うのであれば、その時点で新しい教育システムをつくることはできない。授業の場所、教科等を含めて新しい視点で議論しないと新しい学校はできないと思う。

そのようなことを含め、生徒が少なくなっても郡部校は残してもらいたい。

- 平成に入ってから総合学科の高校を6地区に設けるとの構想があり、中南地区では50億円ほどの費用を掛けて尾上総合高校を開校した。現在は生徒減等の結果、定時制高校となっている。

何か新しい学校を設置するというのはとても聞こえは良いが、準備には時間も費用も掛かる。新しい学校をつくる際には、この先30年以上を見通した上で、費用対効果があるのかについて考えるべきだと思う。

- 学校配置等について中学3年生の娘に意見を聞いたところ、五戸高校、三戸高校、名久井農業高校、田子高校のそれぞれに特色ある学科があれば良いとのことだった。私が高校生だった頃は、三戸郡内の高校には普通科、商業科、工業科、農業科の選択肢があった。今ではそのような特色ある学科が三戸郡には少ない。

以前、南部工業高校の統合に関する会議に参加したことがあった。南部工業高校に建築科があったが、八戸工業高校にはなかったため、八戸市内の生徒が建築を学ぶために南部工業高校に通学するのが負担だという話が出てき

たことについては疑問を感じた。現在でも三戸郡に住む生徒は、例えば理数系を勉強したければ八戸北高校に通学するなど、それなりに負担をかけて通学している。

もう一つ保護者の立場からすると、家から子どもが出て行くと困ると話している親がいる。あまり勉強しなくて良いので三戸高校で良い、名久井農業高校で良いと言う親が結構いる。それだけ地元子どもが残ってほしいと言う親は多い。

そういうことを踏まえ、学校規模が小さくなっても郡部に学校を残し、スポーツ科学科等、魅力ある学科を設置してほしい。

- 新設校をどこに設置すべきかについては迷うところであり、様々な意見が出されると思う。私としては現在ある学校を全て残し、サテライトや他校の教員による指導など、既存の高校を充実させる方法を考えてはどうかと思う。

また、できれば良い高校に行って良い大学に行くよりも、地元に残ってもらいたいとの思いがある。八戸市内の高校を卒業してしまうと、県外の大学等に出でしまい、結果として帰ってこない。

したがって、地元の高校を卒業して良かったと思われるような学校づくりを進めていくべきではないかと思っているので、現在ある高校の教育の充実が必要と思われる。

- これまで、五戸町と南部町の小学校に勤務したことがある。教え子たちの進学する高校について、五戸町の子どもたちは、五戸高校や八戸市内の高校、十和田市内の高校へ進学していた。南部町の子どもたちは、三戸高校、名久井農業高校、八戸市内の高校、岩手県北の高校へ進学していた。三戸郡内においても各町によって進学先の高校が異なるため、三戸郡に新設校を設置する場合、設置場所が難しいと思う。

当初は新設校も良いと思っていたが、三戸郡内に住む教員や保護者に聞くと、三戸郡に新設校ができれば通学は助かるが、やはりつくるまでが大変ではないかとのことである。新設校については、どこかの町村に設置することになるが、そうすると各町村の要望を聞くことになり、なかなか進まないのではないか。

やはり、地域性や生活圈等を考えると、現状の高校を残し、さらに小中学校ではキャリア教育等を通じて地元の良さを学ばせるようにしたい。

### ③ 「ウ 三戸郡の新設校に田子高校も統合する場合」について

委員から、次のような意見があった。

- 田子高校が地域校としてなぜ残るのかということを経済局に確認したところ、田子町は面積が広く、通学するための公共交通機関がない地域もあり、他の高校に通学するのが大変だということである。

- 田子町の生徒のことを考えるのであれば、新郷村の生徒のことも考えないといけないのではないか。

新設校の場所にもよるが、馬淵川沿いに新設校ができれば、田子町の生徒は八戸市まで通わなくて良いのではないかと思う。

しかし、効果よりも課題が多いように感じる。

- 階上町の現状としては、およそ半分が八戸市内の県立高校、半分が私立高校に進学している。一部は岩手県の高校に進学している。その理由は通学の問題である。私立高校については、当町から近い所に所在しているため、いろいろな選択肢が用意されている。したがって、子どもたちのニーズにあった教育がなされている。

考えてもらいたいのは、現状として、高校が全県的に市部に多く配置されていることである。三戸郡や上北郡にはいくつかの高校が配置されているが、市部と郡部の事情の違いを踏まえた配置を考えてもらいたい。

また、重点校や拠点校が複数あっても良いのではないか。そして、連携校との取組をどうするのかということも考える必要がある。これらのことから、郡部に重点校や拠点校を設置しても良いのではないかと考える。

- 田子町の小学校のうち、2校は完全複式である。小規模校の教育効果について様々な意見が出されているが、田子中学校でリーダーとなっている生徒は小規模校の出身である。それは、人数が少ない分生徒一人一人に活躍の場が多く与えられていることや、地域の方々と接する機会が多く、そこで鍛えられていることが理由だと考える。

小学校の統廃合について町議会議員から話が出されたこともあるが、地域の学校に対する思いや子どもたちが頑張っている様子を見ると、統合はできないということで進めているところである。

また、子どもによって大規模校が合う子もいれば、小さい学校での教育が合う子もいると感じているところである。

- 特色ある教育を進めるためには、新しい学校をつくらなければならないと思うが、設置場所については難しい。新設校をつくるのであれば、文化や通学環境も違う中、五戸川沿いか馬淵川沿いのどちらかにしないといけなくなるので、郡部校を1つにするのは現実的ではないと考える。

#### ④ 「エ 五戸高校と八戸西高校を統合して新設校を配置する場合」について 委員から、次のような意見があった。

- 現在五戸町を支えている人材は五戸高校の出身者である。スポーツで活躍している卒業生もいることから、五戸高校を閉校にすることはできない。五

戸高校が閉校した場合、倉石地域や新郷村の生徒が八戸西高校に通学できるのか懸念される。

新設校の設置場所については、五戸町のひばり野公園付近に広大な土地があるので、そこに設置してもらえれば五戸町でも検討するが、八戸西高校にする場合、強く反対することになると思う。

五戸町でも五戸高校を志望する生徒が増えるようにするため、五戸高校OBである手倉森兄弟に五戸町へ来てサッカーの指導をしてもらうなど、魅力ある高校づくりに向けて考えているところである。

- 前回の地区意見交換会では、生徒急増期に学校を増やした分、生徒が減るのであれば、戦前や昭和20年代の学校が増える前の状況に戻してはどうかという考えの下、統合の例として八戸西高校と五戸高校の統合を挙げたところである。
- これまでの地区意見交換会において、「やはり馬淵川沿いの高校と五戸川沿いの高校が一緒になるのは難しいのではないか。仮に名久井農業高校の敷地に新設校を設置したとしても五戸町の生徒は新設校には行かず、八戸西高校や十和田市内の高校に進学するのではないか。」という意見や、「五戸町の生徒が三戸郡の馬淵川沿いの新設校に通うよりは八戸西高校への通学が現実的ではないか。」という意見があったことから、このシミュレーションが提示されたものと認識している。
- 教育機関については、交通インフラの整備がある程度重要ではないかと考えている。以前、バイク通学を認めていた学校もあったと思うが、遠方から通学できるというのは大事であり、学校配置に当たっては、交通インフラについて考慮すべきである。

また、ある機関の資料によれば八戸市の18歳から23歳の人口の減少幅が県内で一番大きいとのことだったが、若者が流出すると、いずれは法人が減り、その結果、雇用や求人が減り、更に子どもたちが県外へ流出するという流れになってしまう。

したがって、今のうちから新しい産業に合う教育を展開するなど、子どもたちの教育環境を整える必要がある。統合はなかなか前に進まないとの意見をいただいたところだが、統合を前に進めるよう考えていかなければならないと思う。
- 五戸高校と八戸西高校の統合校の設置場所を決めることは難しい。八戸西高校周辺を整備したのは30年くらい前だったと思うが、小中高が連携した教育を行うことと交通インフラを考えた結果だと思う。

八戸西高校を募集停止することにより、三戸郡の高校に生徒は留まるかもしれないとの意見があったが、子どもたちが過ごす環境の整備や地域参加の観点からは、ある程度の規模がないといけないと思う。

- 高校を統合するメリットは、教育の質の確保だと考える。地域のしがらみがあって地元の学校を残してほしいという意見も出ているが、教育の質が下がって良いのか、それともこういう時期だからこそ教育の質を確保するために思い切って統合するのか、決断のしどころだと思う。

また、学科については、とりあえず普通科に進学するというで果たして良いのか。様々なニーズがある学科を用意すれば、三戸郡の新設校に八戸市内からも通うのではないか。

学校配置としては、馬淵川沿いに1校、五戸川沿いに1校が良いと思う。八戸西高校は五戸高校としか接点がないように思う。

- なぜ高校が増えたのかというと、生徒が増えたからなので、生徒が減った分は増えた高校を減らしていけば良い。なぜ八戸南高校が統合されたのかというと、市内で最も新しくできた学校だからだと思う。南郷校舎も同様である。そう考えれば、八戸西高校を募集停止にすれば良いのではないかと思う。

学校配置については、八戸市よりも三戸郡を優先して考えないといけない。

県外に流出した生徒は地域にどのような還元をしているのかという問題があり、県外に出た人材が地域の農業等に貢献しているわけではない。県外に人材が流出してしまうと地域が衰退してしまうことを考えるべきである。

もし統合して新設校をつくるのであれば、社会の現状に合った特色ある学科をつくり、専門的な人材を活用すれば良い。

### (3) 資料1-6「2(3) その他の意見」及び「3 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見」

事務局から、資料1-6及び資料2について説明した。

#### ① 「2(3) その他の意見」について

委員から、次のような意見があった。

- 公共交通機関との連携に関して、東京都でタクシーの初乗り運賃が410円に引き下げられたとの報道があったが、その原因は利用客が少ないからとのことだった。

このことを踏まえ、通学環境の整備に当たっては、例えばタクシーの利用等についても検討してはどうか。これができるのであれば、統合しても通学が可能になるのではないか。また、寮の整備を考えても良い。部活動に取り組んでいる生徒は、家に帰るのが遅くなることもある。その場合、遠方の自

宅に帰るのが難しくなることもあるかもしれないので、寮の設置を考えてはどうか。

- 6地区の中でも三八地区における私立高校の募集人員が多いと思うが、その点については考慮してもらいたい。
- 第1期の方が生徒の減少が確かに大きいですが、統合については時間がかかるものであり、2、3年後に統合ということであれば住民もあまり良い思いはしないのではないかと。  
教育の質は落ちるかもしれないが、郡部校は1学級でも残してもらいたい。

## ② 「3 定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見」について

委員から、次のような意見があった。

- 三戸中学校を卒業した生徒は、八戸市内の定時制や岩手県立福岡高校の定時制に進学する必要があるが、通える範囲に定時制を設置してもらいたい。  
また、子どもたちが多様な学習に取り組むことができるよう環境を整備したり、3年で卒業できるシステムを構築したりしてもらいたい。

## (4) その他

委員から、次のような意見があった。

- 事務局には丁寧に進行していただいてありがたい。  
実施計画の策定に当たっては、一つとして、生徒の多様な学習ニーズに応え、進路選択が可能になる計画を立ててもらいたい。  
もう一つは、地方創生の問題である。小さな町に小さな学校があることで地域の明日を担う人材育成がなされているという現状を踏まえてもらいたい。  
さらに、平成29年度において、八戸市内では37学級、三戸郡内では8学級が配置されているが、人口比に対応していない。加えて、八戸市内に私立高校が6校もあるという状況を考慮する必要がある。  
八戸市が中核市に移行したところであるが、行政の面でも八戸市、三戸郡にそれぞれの役割があることを踏まえ、学校配置についても三戸郡の役割を考えてもらいたい。
- 高校の再編については、統合を含め、三戸郡だけでなく八戸市においても身を切る覚悟でいるということは前回も話したところである。  
確かに、地域の学校はコミュニティの核になるものであるという意見も十分に理解できる。ただ、魅力ある高校づくりに関する意見が今回何度も出てきたが、魅力ある高校とは何かということ考えた場合、生徒本位に、将来を生き抜く子どもたちにとって高校がどうあるべきなのかという観点からすると、や



はり統廃合は避けられないのではないか。平等に学級を減らしていった後、身動きが取れなくなってから統合するということで果たして良いのか。5年先、10年先の状況が示されている中、どうすべきかを考える必要がある。

教育長の上には各市町村長もおり、それぞれの立場もあって発言していることと思うが、どちらにしても、それぞれが身を切る覚悟で臨む必要がある。また、「オール青森」という原点に戻り、三八地区でも少子化に伴う学級減が確実に迫っていることを忘れずに計画をまとめてもらいたい。

進行役から、事務局に対して今回の地区意見交換会の内容を踏まえ、資料1-6を修正するよう指示があった。また、進行役が、修正内容を確認の上、当地区における主な意見として県教育委員会教育長に報告することについて委員に承諾を求めたところ、異議はなかった。

## 5 教育次長謝辞

三上教育次長から、謝辞があった。

## 6 閉会